



カケハシ・プロジェクト（招へいプログラム） （アメリカ、若手研究者第1陣）の記録

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、米国よりシンクタンクの若手研究者12名が、2016年11月16日～22日の6泊7日の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策等などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。省庁講義、シンクタンク訪問、歴史的建造物視察、伝統文化体験等を通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験についてSNSを通じて対外発信を行いました。また、報告会では訪日経験を生かした、帰国後のアクションプラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】

アメリカ 12名 [グループA：新アメリカ安全保障センター(CNAS)/アメリカ進歩センター(CAP)、グループB：戦略国際問題研究所(CSIS)]

【訪問地】

東京都、長崎県

2. 日程

11月16日（火）	成田国際空港より入国
11月17日（木）	【オリエンテーション】 【講義】外務省北米局「日本の外交政策」「日米関係」 【省庁訪問】経済産業省「日本の貿易政策」 【省庁訪問】防衛省「日本の防衛政策」
11月18日（金）	【意見交換】グループA：キャノングローバル戦略研究所 グループB：独立行政法人国際協力機構（JICA） 【文化体験】茶道体験（八芳園） 【最先端技術】HONDA ウェルカムプラザ青山
11月19日（土）	長崎県へ移動 【歴史的建造物】長崎原爆資料館・平和公園 【視察】稲佐山：夜景観賞
11月20日（日）	【視察】長崎市軍艦島資料館 【文化体験】万華鏡製作体験（瑠璃庵） 【歴史的建造物】出島 【歴史的建造物】大浦天主堂、グラバー通り 【ワークショップ】
11月21日（月）	東京へ移動 【歴史的建造物】明治神宮 【シンクタンク訪問】一般財団法人日本エネルギー経済研究所 【報告会】
11月22日（火）	【シンクタンク訪問】公益財団法人日本国際問題研究所 成田空港より出国

3. プログラム記録写真 東京都



11/17【講義】外務省北米局「日本の外交政策」(東京都)



11/18【意見交換】キャノングローバル戦略研究所（Aグループ）(東京都)



11/18【文化体験】茶道体験（八芳園）(東京都)



11/18【最先端技術】HONDA ウェルカムプラザ青山 (東京都)



11/21【歴史的建造物】明治神宮(東京都)



11/21【報告会】(東京都)

地方プログラム(長崎県)



11/19【歴史的建造物】長崎原爆資料館
(長崎市)



11/19【歴史的建造物】平和公園(長崎市)



11/20【伝統文化体験】万華鏡製作体験(瑠璃庵)
(長崎市)



11/20【歴史的建造物】出島(長崎市)



11/20【歴史的建造物】大浦天主堂(長崎市)



11/20【ワークショップ】(長崎市)

4. 参加者の感想

◆ アメリカ若手研究者

長崎訪問が経済・産業の観点、ポスト核時代の観点において有意義でした。特に、長崎平和公園を訪問できたことは特筆に値します。

経済産業省、外務省、防衛省の行政官からは、日米同盟について、日本の立場から概要説明を受けたのが有意義でした。

◆ アメリカ若手研究者

今年の KAKEHASHI プロジェクトに参加することができて大変嬉しく、またありがたく思います。生涯忘れられない思い出になりました。

日本の安全保障政策、歴史、国際問題について多くのことを学びました。さらに重要なのは、日本の人々、素晴らしい文化についても知ることができたことです。政府機関、シンクタンクへの訪問を通じて、現状と課題についての日本の様々な角度からの見解を聞くことができました。また、歴史的施設の訪問、文化体験、食事を通じて、日本文化をたっぷり堪能することができました。KAKEHASHI プロジェクトでなければ実現しえない貴重な体験で、日本についてバランスのとれた理解ができました。今後も KAKEHASHI プロジェクトを継続し、私自身も日米間に橋を架ける役割を果たしたいと思います。

◆ アメリカ若手研究者

興味深かったのは、政府の行政官が TPP に前向きである一方、シンクタンクの研究者はもっと悲観的だったことです。

日本人の親切な人柄に惚れこみました。日本の豊かな文化歴史について多くを知ることでも大変楽しかったです。

◆ アメリカ若手研究者

1) 外務省での講義が大変有意義でした。というのは、そのあとに続くプログラムの大枠を把握することができたからです。これらの講義を聞いた後、日米同盟の重要性についての認識を一層強くしました。

2) JICA 訪問が有意義でした。それまでは日本の開発に関する知識がほとんどありませんでしたが、訪問後、日本がなぜ高度なインフラを重視するかよりよく理解できました。

3) ホンダ訪問は意義深い企業訪問でした。ホンダが地元市民を重視していることを知りませんでした。また、ホンダや他の同様の日本企業が投資している技術や研究開発について知り、興味深く思いました。

4) 最も意義深かったのは長崎の原爆資料館訪問です。それまでは漠然としか知らなかった原爆投下の出来事について具体的に知ることができました。

5. 受入れ側の感想

◆ 日本側受け入れ機関（シンクタンク）スタッフ

研究員からの意見説明と質疑応答という形式だけではなく、日英の研究者が双方向でディスカッションできればより実りのある交流になると思います。日米の人脈・人的ネットワークにおいて将来を担う若手研究者達の相互交流の場の提供の一助となれることを期待しています。

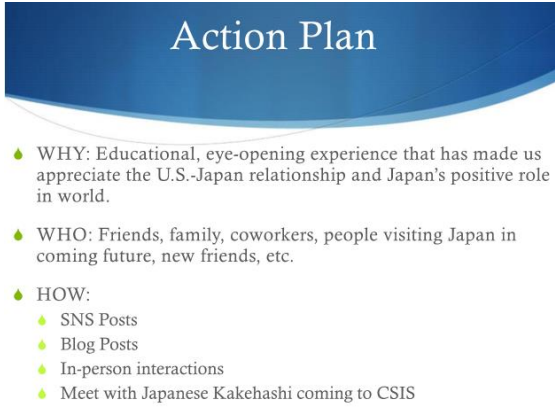
◆ 日本側受け入れ機関（シンクタンク）スタッフ

こういった機会を通じ、参加者の中から日本への興味をさらに深める方が出て、米国でジャパン・ハンドの裾野が広がることを期待しています。

6. 参加者の対外発信

	
伝統とモダンの融合（増上寺）	広島・長崎の歴史的体験からの平和主義宣言

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

ACTION PLAN - Upon our return, we will share our experience with colleagues, friends, and family. - We will use our new understanding of the U.S.-Japan relationship in working groups and convenings with members of the national security field, in Washington, D.C. and elsewhere.	
アクション・プラン（Aグループ） 研究所内の職員、友人、及び家族へ KAKEHASHI で経験した日本の魅力に関する情報を共有する。プログラムを通じて得た知識をワシントン DC やその他の地域で共有し、今後の日米関係に役立てられるようにする。	アクション・プラン（Bグループ） 帰国後も今回のプログラムを通じ学んだことを SNS へ投稿する。 また、今後の日米関係について出版等を通して発信する。